



AMCO

CaseReport

Specialists in the importing and marketing of USA and European medical and scientific products in Japan.

2013.03

13

ディスポーザブル無影灯ハンドルカバーを採用してのメリット

公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター 手術室

新家 修 看護師

【学 歴】 1998年3月 財団法人岩手済生医会 岩手看護専門学校卒業

【職 歴】 1998年4月 東海大学医学部附属大磯病院

2005年4月 公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター手術室



公立大学法人 横浜市立大学附属 市民総合医療センター

設立年数：明治4年(1871年)4月

病院特性：高度救命救急センター、10疾患別センター、19の専門診療科を持つ、地域医療の基幹病院として医療サービスを提供

立地環境：横浜市中心部に位置し、繁華街に近く又、県東部を中心とした第三次救命救急医療の提供

病床数：726

手術室数：中央手術室13部屋、外来手術室3部屋

年間手術件数：平成22年度:7017件、平成23年度:7155件の手術を行っている。

一日の手術件数(各科件数)：20~30件

手術スタッフ数：55名



■ はじめに

日本における無影灯ハンドルは、ほとんどが滅菌して使用するリユーズブルタイプである。現在、我々の施設では無影灯に対してリユーズブルタイプに替えてディスポーザブルカバータイプを採用して使用している。その経緯と使用状況、メリットなどについて報告する。

